

令和5年(1月～12月)労働災害の発生状況(新型コロナウイルス感染症除く)

※労働者死傷病報告(休業4日以上)の死傷災害により作成
 ※()内の数値は死亡者数(内数)を表す

(1)業種別の労働災害発生状況(対前年比)

確定版

【表1 業種別の労働災害発生状況】

尼崎労働基準監督署

業 種	令和5年(1月～12月)		前 年 同 期		前 年 比 較		
	死傷者数 (人)	構成比 (%)	死傷者数 (人)	構成比 (%)	増減数 (人)	増減率 (%)	
全 産 業	441 (1)	100.0% (100.0%)	460 (2)	100.0% (100.0%)	-19 (-1)	-4.1% (-50.0%)	
第一・二次産業計 (運輸交通業、貨物取扱業を 含む)	241 (1)	54.6% (100.0%)	239 (1)	52.0% (50.0%)	2 ()	0.8% ()	
製 造 業	107	24.3% ()	86	18.7% ()	21 ()	24.4% (-)	
鉱 業		()		()	()	(-)	
建 設 業	30 (1)	6.8% (100.0%)	38 (1)	8.3% (50.0%)	-8 ()	-21.1% ()	
運 輸 交 通 業	75	17.0% ()	86	18.7% ()	-11 ()	-12.8% (-)	
貨 物 取 扱 業	18	4.1% ()	24	5.2% ()	-6 ()	-25.0% (-)	
農 林 業	5	1.1% ()	2	0.4% ()	3 ()	150.0% (-)	
畜 産 ・ 水 産 業	6	1.4% ()	3	0.7% ()	3 ()	100.0% (-)	
第三次産業計 (運輸交通業、貨物取扱業を 除く)	200	45.4% ()	221 (1)	48.0% (50.0%)	-21 (-1)	-9.5% (-100.0%)	
商 業	卸 売 業	5	1.1% ()	4	0.9% ()	1 ()	25.0% (-)
	小 売 業	57	12.9% ()	54	11.7% ()	3 ()	5.6% (-)
	上記以外の商業	13	2.9% ()	21	4.6% ()	-8 ()	-38.1% (-)
	計	75	17.0% ()	79	17.2% ()	-4 ()	-5.1% (-)
通 信 業	5	1.1% ()	7	1.5% ()	-2 ()	-28.6% (-)	
保 健 衛 生 業	医 療 保 健 業	13	2.9% ()	12	2.6% ()	1 ()	8.3% (-)
	社 会 福 祉 施 設	42	9.5% ()	43	9.3% ()	-1 ()	-2.3% (-)
	上記以外の保健衛生業		()	2	0.4% ()	-2 ()	-100.0% (-)
	計	55	12.5% ()	57	12.4% ()	-2 ()	-3.5% (-)
接 客 娯 楽 業	飲 食 店	14	3.2% ()	19	4.1% ()	-5 ()	-26.3% (-)
	ゴ ル フ 場		()		()	()	(-)
	上記以外の接客娯楽業	2	0.5% ()	2	0.4% ()	()	(-)
	計	16	3.6% ()	21	4.6% ()	-5 ()	-23.8% (-)
清 掃 ・ と 畜 業	ビルメンテナンス業	7	1.6% ()	9	2.0% ()	-2 ()	-22.2% (-)
	廃 棄 物 処 理 業	10	2.3% ()	10	2.2% ()	()	(-)
	上記以外の清掃・と畜業	6	1.4% ()	5	1.1% ()	1 ()	20.0% (-)
	計	23	5.2% ()	24	5.2% ()	-1 ()	-4.2% (-)
そ の 他 の 事 業	警 備 業	7	1.6% ()	3	0.7% ()	4 ()	133.3% (-)
	上記以外のその他の事業	14	3.2% ()	18 (1)	3.9% (50.0%)	-4 (-1)	-22.2% (-100.0%)
	計	21	4.8% ()	21 (1)	4.6% (50.0%)	(-1)	(-100.0%)
金 融 広 告 業		()	7	1.5% ()	-7 ()	-100.0% (-)	
映 画 演 劇 業		()	1	0.2% ()	-1 ()	-100.0% (-)	
教 育 研 究 業	5	1.1% ()	4	0.9% ()	1 ()	25.0% (-)	
官 公 署		()		()	()	(-)	
(陸上貨物運送業)	73	16.6%	97	21.1%	-24 ()	-24.7% (-)	

注 一 〇 第三産業は通常、非工業的業種に運輸交通業、貨物取扱業を加えたものをいいますが、ここでは、非工業的業種(商業、通信業、保健衛生業、接客娯楽業、清掃・と畜業、その他の事業、金融広告業、映画演劇業、教育研究業、官公署)を第三産業と呼んでいます。